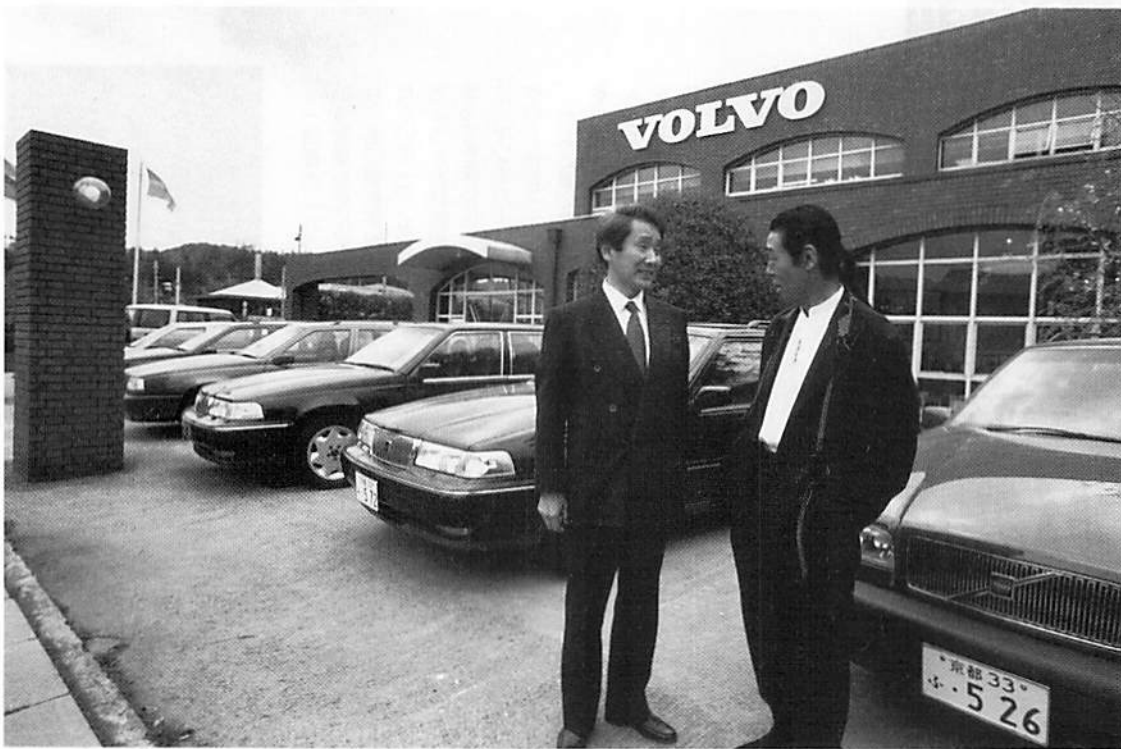


N BY KOUICHIRO GOSHO NAKED EYES. E

木戸 靖

machine-crazy

株ニユー・イースタン代表取締役社長●プロフィール 1939年京都市生まれ
63年甲南大学卒業、66年10月自動車整備業のニユー・イースタンを創業
74年帝人ホルボの京都府ディーラーに、87年ジャガー・ハウス設立、趣味はクラ
シックカーのリストアをはじめ、音楽鑑賞および演奏、ヨット等多岐にわたる。



ちつちやな頃からクルマ好き。
安全、快適、スタイリッシュな男。
ヤツ

男とクルマの関係は、男と女の
関係に似て一筋縄ではない。か
なるほどこの男にはこのクルマ
とうなずく場合もあれば、なぜあ
いつがこのクルマに…と首をひね
ることも多い。「ベントツする」だの
「ボルシェする」だの、自家用車
にことよせて自らのライフスタイ
ルを演出する言葉もある。乗って
いるクルマの種類を問えば、持ち
主の生活態度や人生哲学もおのず
と推し量れるというものか？

親も驚く 医者から修理工への転身

御所 木戸社長は大のクルマ好き
として有名ですが、会社を始めら
れた当時はヤンチャだったのか、
それとも研究家肌で始められたの
か、そのあたりからおうかがいた
いのですが。

木戸 親が医者で往診用のクルマ
があったんですが、これを使う日
は朝からエンジンの世話をする係
が要りました。

御所 運転手じゃなくて、クルマ
の世話係ですね。

木戸 ええ。小さい頃からその一
部始終を見てるのが好きで、大き
くなると、そこらのボンコツ車を
直して走らせるようになりました。

医学部に進学したんですが、どう
もピンとこない。電子工学部に移
り、就職もしたものの、やっぱり

無愛想な外観とあまりの頑丈さ
から戦車が霊柩車と言われたイメ
ージを払拭し、知性ある大人のク
ルマとして人気のボルボ。「スベア
車が必要」と言われながらも、絶
妙なスタイリングに熱狂的なファ
ンの多いジャガー。個性的なふた
つのクルマを販売する京都きつて
の外車ディーラー、木戸靖氏にお
話を聞くべく、今日は国際会議場
に近いニユー・イースタンシヨウ
ルームへ愛車を急がせる。

メカがやりたい。3年で辞めて町
工場程度の外車ディーラーへ入り
ましたら、親が怒りましたね。

御所 そら、怒らねばなりません。医者
から修理工への転身とは、よほど
クルマがお好きだったんですね。

木戸 そうです。ところが、入っ
た会社は1年でつぶれる。幸い、
工場を貸してもらえたので、メン
テナンスに専念しはじめました。

御所 すると当時は、どんな恰好
をしてはったんですか？

木戸 年中油に汚れたツナギ。面
倒なときは「社長はいてません」
で通してました。

御所 じゃあ、最初はクルマの売
買はされてなかったわけですか。

木戸 考えもありません。ただ知り
合いの医者のクルマを修繕してた



「アフターの面倒見がえから、おまえのところでクルマを買いたい」と言われる。仕方がないので自分でヤナセや中古車ディーラーへ行きだしたのが、始まりです。

御所 「買うてきてくれ」と言われて、始められたんですか。輸入を手がけられたのは？

木戸 ちょうど貿易自由化になりましたので、ジャガーなどを直接買い付けました。日本初の並行輸入だったんじゃないかと思えます。その後、排気ガス規制などもありまして、やっぱりディーラー権を持つとかんと…ということで、ホルボのディーラーに名乗りをあげたんです。

マジメな国生まれのマジメなクルマは目に見えないところこそ、価値が…

御所 なぜ、ホルボに？

木戸 単純にはかのメーカーに相手にしてもらえへんかったからなんですけどね（笑）。当時のホルボは名前もまだ知られてないし、「もったいない」売りにくいクルマでした。

御所 そのどこに惚れこまれたんです？

木戸 恰好はバツとせんけど、安全性を第一に打ち出した人間のための良き道具というところが気に入りましたね。実際乗ってみると乗りやすく疲れへん。なかなか、ええやないか…と。御所 それは、スウェーデンの国民性とも通じるものなのでしょうか？

木戸 そうですね。スウェーデンは当時人口が

850万かそこらで、国土は日本の5〜6倍。人の少ない国ですから、人命を非常に大切に

する。社会福祉の発達してきた国でもありますが、豊かな自然のもとで、たしかに安全性と環境破壊に対する厳しい姿勢が生まれたんです。とにかくマジメな国であり、マジメな会社であると思いますね。

御所 なるほど。今でこそ安全性・環境というのは大切なキーワードですが、20年前は口の端にも登らなかつたですよ。

木戸 安全に重たい、走らんとかわられて、安全性はセールスポイントにならなかつたです。御所 当時は何人ぐらい？

木戸 メカばかり5人ぐらい。昼間は修理で、夜になると走り回って「頼むし、買ってほしい」（笑）。1台売するのに1〜2年がかりで、セールスマンではホルボは売れん、説得マンにならんと、と言われました。当時買ってくれたのは、思えば個性の強い人だったんでしょうね。

御所 あるいは説得に負けたとか（笑）。

木戸 とにかく見えん所に金のかかっているクルマで、自分のモノにすると、ええとこがいっぱいでてくるんですが、買ってもらうから言われてもこちらはいやあない（笑）。ただ、乗っている人からの紹介は多かつたですね。

御所 ほんまにええ女みつけた、という感じかもしれませんね（笑）。たしかシートベルトの取付も、ホルボが最初ですよ？

木戸 ええ。最初は「不細工なものを」と全世界の笑い物やつたらしいですよ。ところが、今では世界中で法的に着用が決まってる。ホルボ社では安全に関わる大切な機構だから、と特許権をとらず、タダで各社に提供していま



すね。

御所 えらいやつちやなあ…。

木戸 安全に関する意識はすごいぶん違います。コストはかかってもらねばならぬことだ、と。「我々は人間に害を及ぼすものをつくっていません」と新聞広告で言うぐらいですから。

御所 発想が全然ちがうんですね。

木戸 ヨーロッパのBTCCLレースでも、排気ガス装置をつけて参加しました。たとえレース

モノをつくるほど面白いことはない 修理工・木戸靖氏の生活と意見

御所 木戸さんご自身は、どんなクルマに乗っておられるんですか？

木戸 78年に出た2ドア・クーペのベルトリーネという、現在はつくられてないモデルです。

御所 ジャガー・ハウスの経営もなさってますが、こちらは昔からの人気車ですよ。

木戸 独特の雰囲気がありますね。昔は故障が多く「時間の約束があるときは乗れん」と悪名とどろきました。2年前のモデル・チェンジで、その心配もなくなりました。私も古いのを2台（Eタイプと420）持ってます。休みにになると下へ潜って手をかけたので、今では快調に走ってますよ。

御所 ほんまにクルマがお好きなんですね。

木戸 モノをつくるほど面白いことはないですね。日曜大工でたいいていのものはつくりまです。コントラバスもつくつたし、友達と山小屋を建てたり、このショールームの設計もしました。

御所 楽器や設計まで！ 男として創造的なことをしたい気持ちは共通なんじゃないですか、ふつうは専門知識がいる段階まで、よう手をたさないですよ。

木戸 人がやってくるのやから、自分にできんと

でも、排気ガス規制の例外やないというのがホルボの考え方です。

御所 すこいメッセージをどの場でも発表してこられてるんですね。最近やっつと、その真価が日本人にも見えてきた気がしますね。

木戸 メーカーの哲学がようやく理解されてきたんでしょね。3年前に出たF55気筒の850はグッド・デザイン大賞も獲りまして、若い方に人気のクルマです。

は思わないです。日曜は朝早くから動き回るので、家内に嫌がられますね。寝てるのがもったいなくて、クルマの横に布団をもつてきた。

御所 そこまでクルマやメカ好きなのは、ひよつとすると木戸家の血がもしれませんか。人間の身体を開いて修理したりする代わりにクルマのメンテをなさってるのでは？

木戸 いやいや。機械のほうが好きですよ。御所 さて、修理工・木戸靖としてはホルボのエンジンや装備について、どう思われます？

木戸 繰り返しですが、乗りやすく疲れにくい。つまり、安全に長距離ドライブができる。そのため機構やシートのつくりは優れていますね。

御所 安全性については、ゆずらないんですね。

木戸 国産で、走りだすとドアが全部オートロックされる車種があるでしょ。あれは、メーカーとしてほしいかん、とホルボは言ってます。事故をした場合、外から助けてもらえなくなる。御所 でも、衝突してドアが開くと、放りだされる危険が…。

木戸 ホルボの場合、どんなにロールしてもドアは絶対に開かない。だから、内側からのロックはせんといはほしい、と言いつつ切ってます。



（御所氏へのメッセージ）
御所光一郎 「クラブフェイスム」プロデューサー。木戸靖氏より

「今日はほくのほうも楽しませていただきました。今乗っておられるリンカーン・コンチネンタルもいいクルマですが、次はホルボがジャガーでお願ひしたいですね」